



邱林泉名勝圖會

五

E
163
6

逍遙文庫
文庫 6
1875
6



地
8
6

都林泉名勝圖會卷之五

目錄

嵯峨小督隱家
老亭
同寶品虫干休
神子若
法隆寺
大井川之船游
宗祇齋居
定嗣卿古蹟
桂川船遊
初卯齋
泉之坊
櫻櫛坊

亭子院
龜山院
雲居庵
真乘院
嵐山花盛
道令法師趾
桂里園林堂
男山
安居頭
松蒼堂
山下金剛院

文龍寺方丈
同十景
妙智院
龜山殿舊蹟
法輪古十二齋
兼室西方寺
清原元彌家
放生會式
龍平坊
萩坊
淀登巨庵蹟

山崎妙意庵
芝山の水鉢
陽泉亭
糸屋弥生興

茶室
山崎珠跡
不在城
藤屋月興
茶亭

袖拂松
相應寺古蹟
弥生花家
角屋雪興
曲松

都林泉名勝圖會卷之五目錄終

林五ノ一

東京
都林泉
名勝圖會
卷之五
目錄終

小樽局の橋中納言
成絶つての女みしる宮中
貴人の美人之平相國
清盛みまはれ候御座
馬屋れみまはれ候御座
若くは浪まきまはれ候御座
想ふ戀の曲と弾ト
ゆゑ官人仲間と
帝の御座候御座
月の清は小局の
棲て候御座
繪て候御座
夕の師曠
琴心敬し
神明小通
白鶴の御座
比ま
や



甲

三舩賞春詩序

寬政十年歲在戊午時值仲春日期念八
連朝淫雨新霽西堰櫻花盛開偶聞伶官
名工泛舩賞春因促羣賢緒子追踪後行
並皆不詩則倭歌不書則丹青聚合眾能
併成三舩仰芳於嵐嶺沂舟于桂河棹分
碧潭之花影攬曳青崖之苔香清樂之奏
雅詠時間用助文藻之妙思觴酌互勸笑
謔屢聞心適歡娛之逸致跡誠同道長材
或遊經信良會雅屬佳期多違悅芽躅之
幸繼恨遲景之易沒頌雖昔賢雉同茲懷
耳況分律韻得七陽以寓鄙情于八句云
翠嶂風開雲夢香山陰景轉碧川長四

林五ノ三

清興聞綠竹三舩歡情見羽觴霞逐曲聲
依幕落波隨醉態向舩狂昔賢勝蹟今安
在回首春天惜夕陽

平安皆川愿題

園

此乃日とともりわりの

成元

此詩文法園主及山宗通の自筆也神稿なり凡そこれを傳へるは其の如し
誹諧漢和表六句賦差我名所和陽韻賞嵐山此

嵐山嶺櫻花擁三舩

蘿

子銘也猿を依てを飛
詩成大堰陽を燎
歌詰橋を彩霞長
吹あ向藻の馬場お存
小智のちとハみ那を流の橋



林其四

甲和

海山晏窓園師
集瑞軒方丈の書院



天龍寺

五山の真一なり

此方丈の林泉は岡基晏窓園師の

仙居の龜尾山あり一丈堰川戸難瀨瀧と名中の莊としていさの

妙境之山門と名明閣と號し集瑞軒の蓮化と曹源也林を龜尾の

禁より水脈通しく炎暑も個ごとく松洞の南に松林あり

龍門亭へ多宝院あり戸難瀨小向いし名名なほ妙智院の

名中の僧良策考の造るる世人大明小流其時角倉宗桂の父あり

通入好奉大悲閣了以の碑あり集瑞軒方丈の書院といふ

集瑞軒方丈の集瑞軒より名のなりけり日

若うりあるたのやまゆるあり山松と梅をさくらわれり

壺庇廣鎮守八幡宮といふ絶唱溪へ大井のと號し二級巖へ戸難瀨瀧

二曲小流あり龜頂塔へ龜尾山の巔あり嵐山の峯と號し鎮守といふ大井の

橋は度月橋といふ

宜竹集

架七十八万三千戸於波心赤い青何虹

天龍寺什寶於客殿虫干圖

南西向 陶山新藏

袈裟 白地古金襴
金地三重蔓大牡丹

袈裟 丹地富田

袈裟 紗 震且楊岐禪師所持
歷十七世夢窓國師傳未

袈裟 紫地銀襴 國師天龍寺供養
時賜紫衣

南東向 西側 墨蹟類

國師空谷 二大字 一文字萌芝地

國師笑山 日 中茶地

國師春屋 日 一文字茶地

同頌 日 一文字茶地

南東向北側

默翁頌 中字 模物
一文字 茶地小牡丹

圓光經文

梵音閣頌 一文字 茶地紗
中白地小牡丹

北叟頌 一文字 茶地紗

垂楊頌

宋船綱司頌

南禪退院頌

平田頌 一文字 白地大牡丹

南東向南側 陶山墨跡

十願文 二幅對

和菴主頌

應無 二幅對

雨生

飛空鳥 二行 竹書

日本拜頌 三行 物

修多羅教 細字 橫物

宸翰案文 模物

同 東側

陶山

御手狀 種竹和韻

鐵舟墨蹟

三尺黑紋 模物
和風 二幅

三向

陶山像

自贊

陶山像

自贊

佛國國師像

陶山贊

初祖大師

佛照贊

吳道子觀音

馬祖大士

蕪漢臣

國師

自贊

國師

同

國師

同

龜山院

御歌如

同

後醍醐帝

御書如

馬遠

雪峰
貳幅

舜舉

虎
龍

頽輝

同

邊大進

花鳥

馬遠

吳道子

陶祖像

徽舟贊

黃龍

空谷贊

仰山

笠名贊

高峰

中峰

興化

平石贊

仲先祖

墨跡

佛國

墨跡

絕海

墨跡

同同

同同

同同

墨跡

三向

右 虎

觀音大士 陳水翁 三幅對

左 龍

香嚴大士 張思恭

四臨圖 無準禪師

不動尊 龍頰 高畫
之幅對

文殊大士 北殿司

達磨 顏輝 卷
照無名贊

山水 馬一溪

壺公仙人 唐畫

王元章梅

李龍眼

徽宗皇帝

林良

盧朝陽

唐畫

周文冕

蒲萄 畫

同 文 畫

十賢圖 畫

は林をぬき
羨窓玉隙
のゆるり
を莊に



文龍
の居る
菴

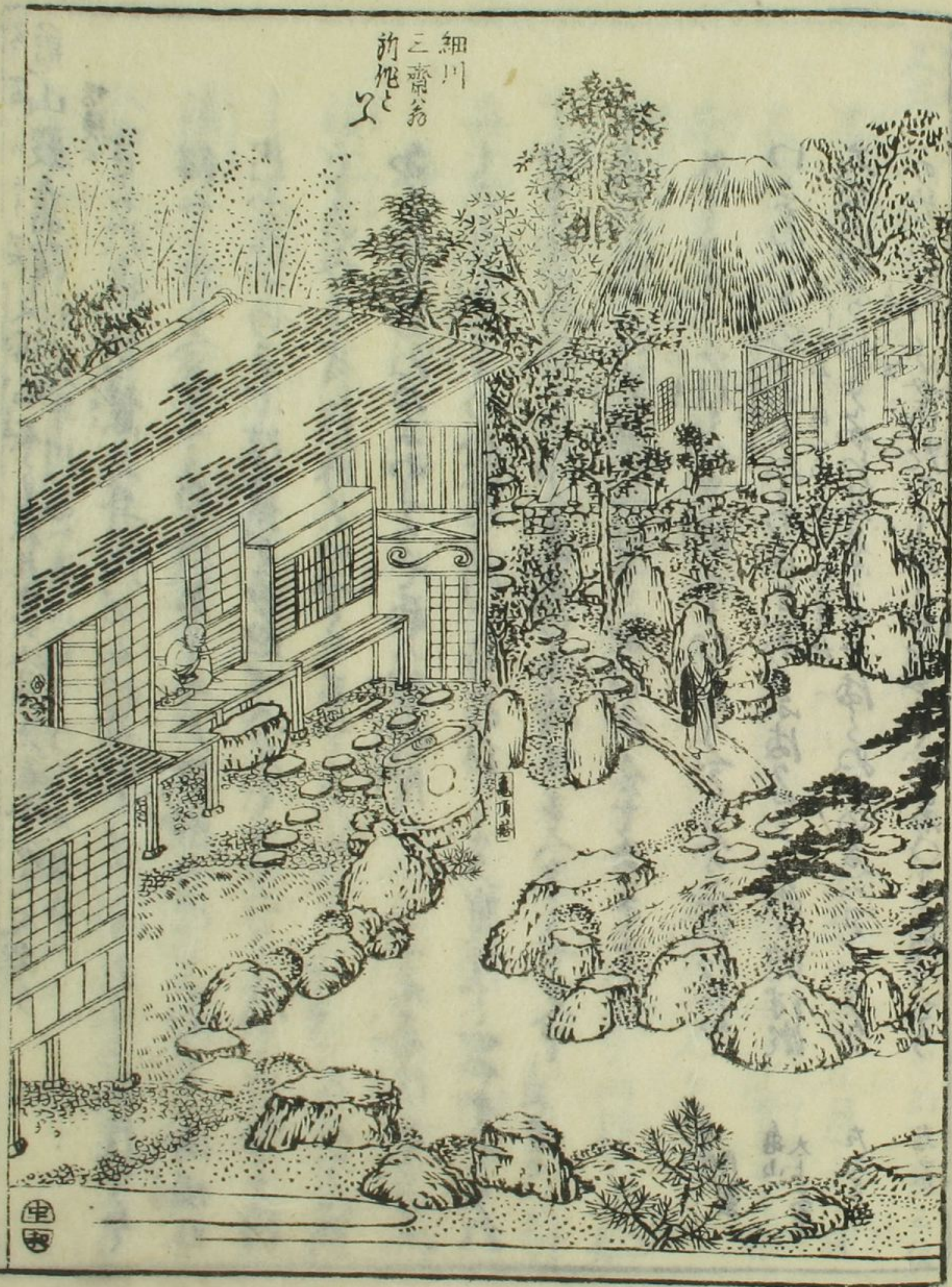
文龍
の

嵐山



木五八





龜山殿舊跡 又後醍醐天皇御時林氏東へ今の延福寺跡にあり
塔凌云 南へ大井川西へ龜山北へ那宮にあり

このれ龜山の棟大井川のわれ居小ありあむてつた院を
はくも安んぶとくこのれをど各戸難願の境とわらう御垣の
内ふんてつさやほろとせむせんごのつらう庭とくくうの
のつみしき法作といふもそとまびびとて 同書云
あつひやのぬおわうて西に藥料院ひうふも本考院かといふ
もあり天王寺の金堂うの飛龍ひくも寶院といふをてられ
くる大為勝院とせゆる慶長の御持佛をたまへせり 同書云

龜山殿の枝殿九月十二日新御合を歩せり
山の紅葉
外よりへへれも心の深さむおろくく山の花
つら者のものうあわぬあじふあふはうせくあつ院は
大井川ありてとれた本葉もとほぬ秋の色へん々り
の光のかれふ葉あたりけらきたるこの若くふえ作り
寺院
作製
龜山
大上天皇
左大臣
右大臣

大井川 三河國津島郡大井川村にあり
大井川の流櫻勅建中納言從二位
真子院の時時 五十九代天皇宇多天皇次子院と
昌泰元年九月十一日

大井川よりあつて帝とて先諸卿和可と稱しなり紀貫之も供
奉しなりとい集の假名序と書れり本著園集不見えり又
圓融院の時宇 六十四代天皇兼家二男藤原道長公
大井川に花流の時詩の
と分てあつて櫻の人のあつてなるも四葉大納言も修せり云はば
舟のつらとや公住に云わおの舟にのるごとくのつらり其物ふ
物とてた嵐の山にそるれ紅紫の綿さぬ人せり 云任

後不宣ひくといはまの舟にのるゆきせり修れりあせんとりせれ
し又詩の舟にそる是やの詩と修せり名もあけりゆしや
後悔せりゆしや花と院捨る真探をせり時紅紫の衣とて
入るたりゆしやゆしやゆしやゆしやゆしやゆしやゆしやゆしや
入るたりゆしやゆしやゆしやゆしやゆしやゆしやゆしやゆしや
十訓抄
大意

大井川の二船とて言ふ白河院西川大井川のふり香の清時詩寄菅笠
 の二の船と浮く其乃々の人々とて言ふ香るるに帥民部卿菅笠信卿
 遷葬の間其の外に清氣色ありうらる程ふとばうりまはれてまをたう
 たるが二車並てう人あくけひさほつたてやうの舟にまはれりあひや
 いそれうける時ふ取てあひうらうりやくいそん料ふるん道衆せられり
 にはあけりく後経の舟ふ系て詩寄を秋せられりるをまはる大堰川乃
 二の船の清遊とて大鏡あり十訓抄ありて才徳の部に載られり

本朝文粹

暮秋泛大江各言所懷和歌序
 寛弘之歲秋九月蓬遠侍臣二十一日
 龜山又下大井河之遠侍臣二十一日
 竹籟於戲今無日與鴛鴦近紅葉與綺
 標於戲今無日與鴛鴦近紅葉與綺
 誇四海之無事也今偏情不備三農之
 有年也船者擗州刺史盡干陸之
 深若靈林主有人兼花鳥之暮山
 難若靈林主有人兼花鳥之暮山

新抄

後法橋

後古

王景

後法橋

後古

後法橋

後古

後法橋

後古

後法橋

後古

後法橋

後古

後法橋

後古

後法橋

後古

後法橋

後古

後法橋

後古

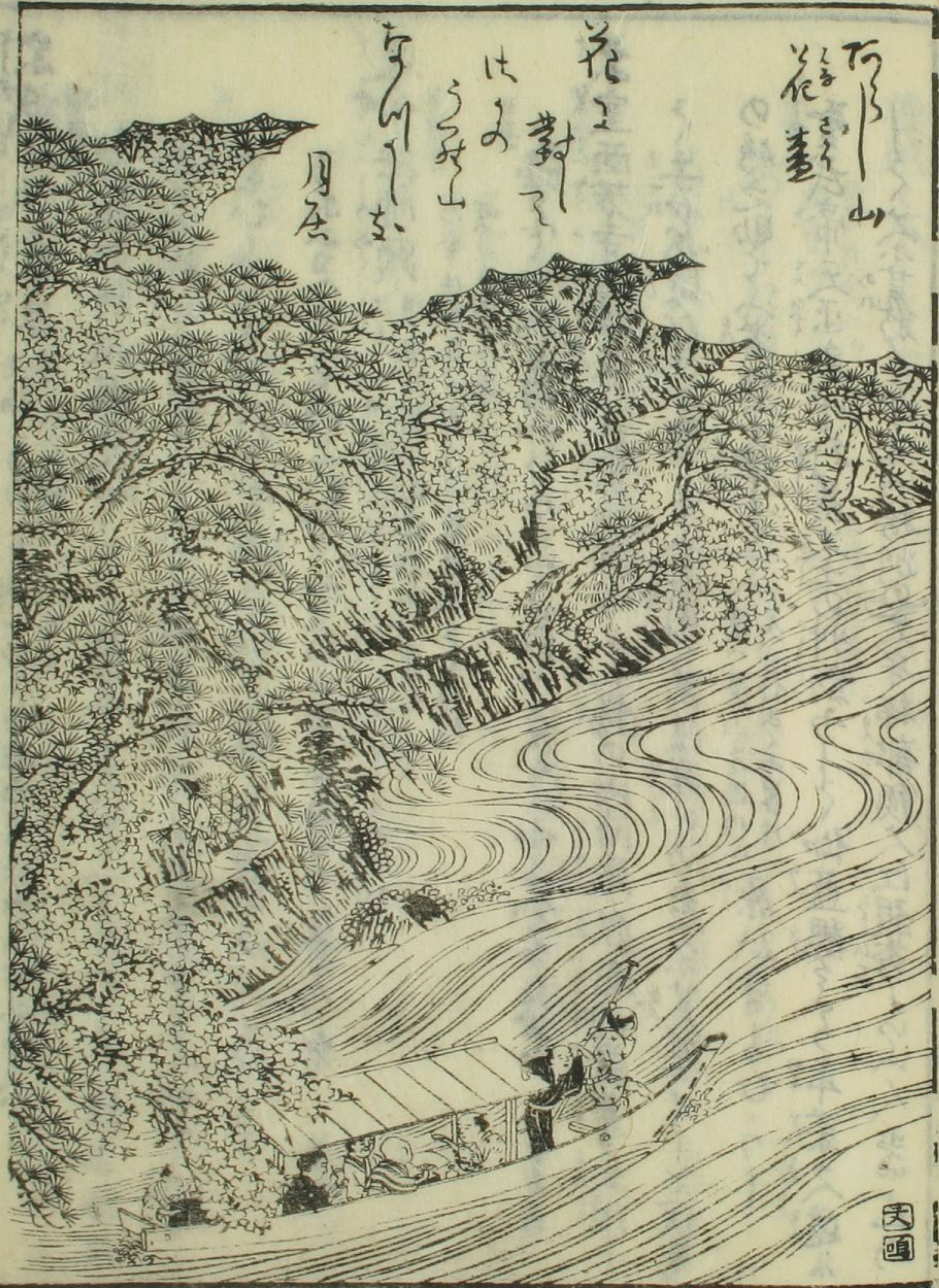
後法橋

後古

ちりあねをそりたれと大井川の山吹今さうり形を
 大井河すねみゆたふ年をゆる紅糸の紅流はり有る
 と長ちあね入江の松さうりねれりあねはり有る
 大井河若波さうりまをれいこの麻ふまをきたる
 大井河井さたの水や砂さうり人早瀬さうりれ聲下ゆ
 大井川の南にあり大堰の道七町許あり山中極多
 大井川の盛み都下の懸人さうり大堰
 大井川の仙洞の若や大堰の極多あり
 極くちりうらたの嘆たふんま
 まとふあひあねれり二若者のたはるあせ宿に嘆たれ
 あうり心さるうらゆる月あふさうりせ流のまらゆゆ
 けりもあひさうりま名のあうり心たのあといそるをえ
 文ひは流のひたを嵐山さうりさあえてさあ月あね
 城西三里是嵐山二十年來百往還
 人已數莖新白髮花猶一笑看紅顏

五鳳集 嵐山看花
 瑞漢





大堰川上春澹沱宿雨新
花正影山岑千
轉撩人徹遊人傾城狂
無那一輛草屐一枝
藤我六村店買白墮
醉來益覺興激昂
松枝挂巾石上坐
真箇移得罨畫溪
曲都被彩雲裏
南岸花與小岸對
彩落春溜相映暖鴨
嘴之灘燕尾沙青慢
碧毯一隊細馬公子
按玉羈畫舫佳人唱
竹枝蝶誤濃香縷紅袖
莫嗚艷雪點金卮
少頃初月破煙濛
流光赴花
腫朧何郎酒醒
備羅冷石家宴散
錦障
君不見嵐山昔日種
花辰山容學成
茅野
春來未去
菜園落
今人行樂
笑古人不知
今春也
電過風儼
雨愆
一夜蒼

嵐山觀花歌

橘洲畑植

宗祇法師意匠

碩礫集

法橋の南に所許あり其地西に法師の古跡あり

宗祇法師法橋の西に菴を築き坐して終焉す其地あり
ある時野別常縁とてひたる瑞あり一月あるを人びやて思ふ
をむしり立つたる孝意とてはく瑞て宗祇の件つらうなる

とあるんをまほさんわらふ里のまをうゆる夕暮乃を 常處

道令法師蹟

道令法師蹟 道令法師蹟 藤原相通卿一男也

乃令法師さくわりく後法橋の橋也

法にや終焉すらんさくわらふがみかむる世ふ

西條彦つ

兼室西芳寺の林泉

兼室西芳寺の林泉 兼室國師が止錫の時洛陽深及地蔵尊出現

く土石灰運び共ふ能く申名聞之其後應仁の火小荒蕪す伏見
の橋之助て一着能く補ふといふ 圖は深山を遠傳ふ 原は寺をむの

聖武帝天保年中行基丈士の州創ありて伽藍魏々たる年兼久遠ふ

くく不荒蕪をさる時持別の文字持部頼久江親秀といふ人當ふ乃

林五十五

極城と成る兼室國師と法とく再興小乃ふ

西方精舎小津をありて其地の佳花と

敷地ありたる翌日小津をわたり

兼室集

わたりたる君らみゆたと松風ふちぬ極の色と見るの非

竹林院 四ノ宮

花ゆ小津香小ある若く身ふふ年のまはれ待つか

兼室

自集

征夷將軍 兼室 西芳寺の花さうりにかりく
法法の後を凌ぐる況ふ
心ある人のやむるをのまをて極のとうか志を説く

同

兼室集

忘れか見しは其の衣乃兼の窓

園白の衣

永徳二年三月西芳精舎の百韻連発の中ふ
あふ 道多衣のさる谷のゆりて

二条松政殿

乳初

世はのうれし兼室といふ山里にありつや
竹うらふ小な衣をく凌侍の

ち二朝言 光頼

定嗣卿山莊古蹟

兼室小まふ
今定さる

著聞集

兼室納言定嗣卿は和漢の才先祖も能くをたれ寛文元年の脱履はめ

多し仙洞の親捨なうあはれくくあふ清康の空一有る程は菩提の
 道心の底もや僅くくん建長元々のに兼室入納言の栖乃かやうふ
 山莊の御座らるるは二年八月十二日早くと引はくろひて院橋政廣を
 持政殿と名のあはれりける上皇御すのや有る女房してて先
 修られたる一切その後さたうとて同十四日の曉まうてはてい
 みくおみ入りの程かろくふ宿概み修されて詩可ふはるる
 百練抄 同之
 建長 第二 年 余 齡 四 十三 仲 秋 八 月 二 三
 五 前 夜 出 俗 塵 入 佛 道 感 懷 内 催 獨 吟
 外 形 而 已
 遙 尋 祖 跡 思 依 然 葉 室 草 菴 雲 石 前 願 以 之
 勒 王 多 日 志 博 爲 見 佛 一 乘 緣 曉 辭 東 洛 以 之
 紅 塵 暗 秋 過 西 山 白 月 圓 發 露 淚 零 除 髮
 莖 開 花 勢 盛 觀 心 蓮 長 寬 亞 相 通 名 夜 清
 節 先 生 掛 官 年 新 發 意 定 然
 又
 陶 令 亮 之 歸 休 春 秋 四 十 三 曾 祖 令 道 俗
 八 月 十 四 日 景 氣 逢 境 自 然 銘 肝 昨 仕 朝

端 何 所 耻 同

兼室の御座らるるは首ふおよびと入るる乃六月せりつらぬ 同

極樂の道たぐちんをそめく都の病々んをそめ 同

桂山莊園林堂

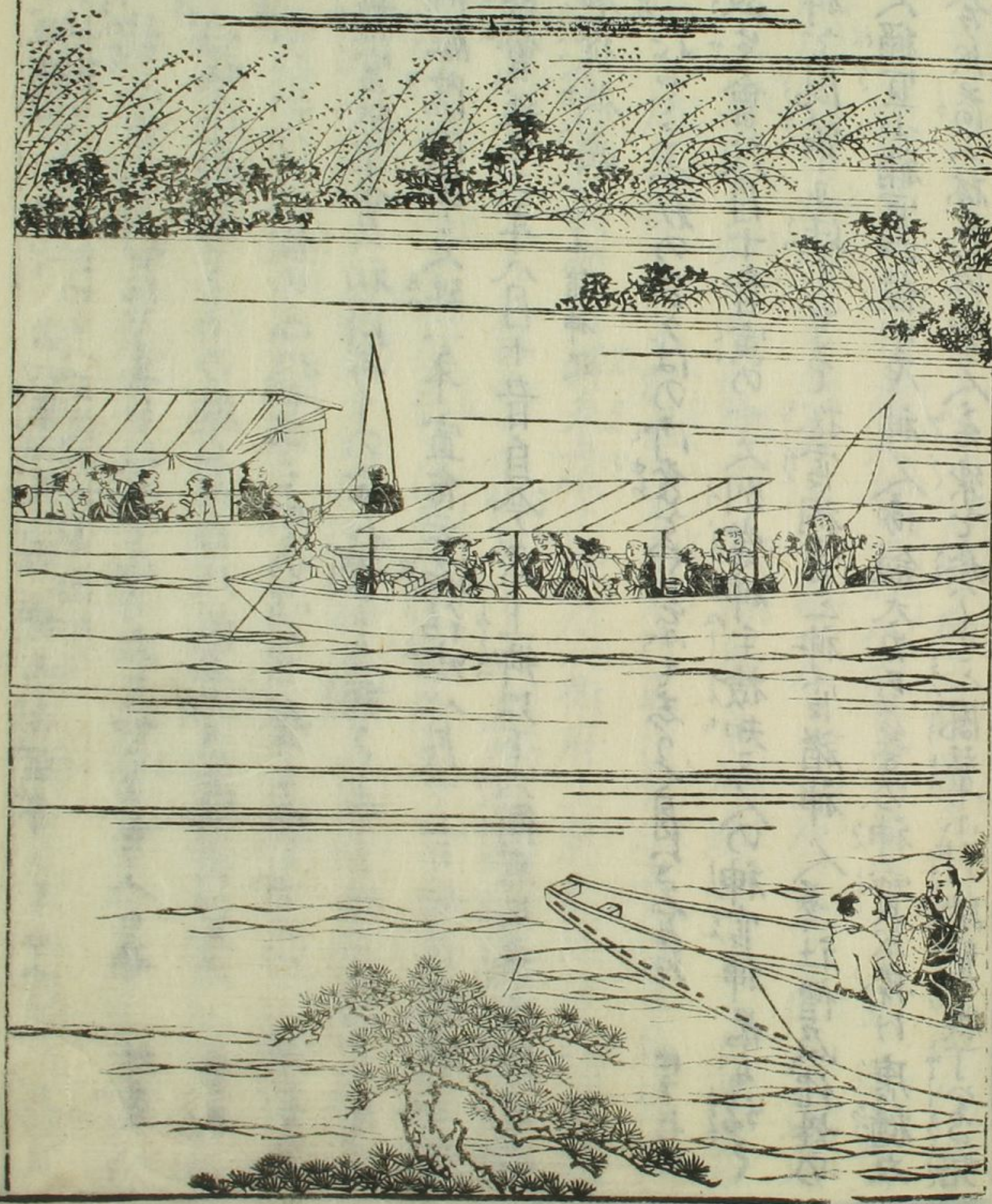
別荘の主人を傳云初ハ豊太閣の権摩一と云小浜遠州の遠と云とぞ
 洛西林堂の冠と云とのと
兼室集詞書云
 寛永の以也ハ系友智忠親王都のみ一桂とくを築しめは
 新あり先の宮北御時よりり庵とくをわね其新志門らひ
 物せよやまみ海み川くもいくそ本ひつらう海しくあくつらさ
 先くく様くの亭閣山寂然とそ石成たみさる桂川をかて
 水勢貴入ら殺花の色多れ聲山の木ら中書つらう
 先けくくくく見ゆ

桂山莊園林堂
別荘の主人を傳云初ハ豊太閣の権摩一と云小浜遠州の遠と云とぞ
 洛西林堂の冠と云とのと
兼室集詞書云
 寛永の以也ハ系友智忠親王都のみ一桂とくを築しめは
 新あり先の宮北御時よりり庵とくをわね其新志門らひ
 物せよやまみ海み川くもいくそ本ひつらう海しくあくつらさ
 先くく様くの亭閣山寂然とそ石成たみさる桂川をかて
 水勢貴入ら殺花の色多れ聲山の木ら中書つらう
 先けくくくく見ゆ

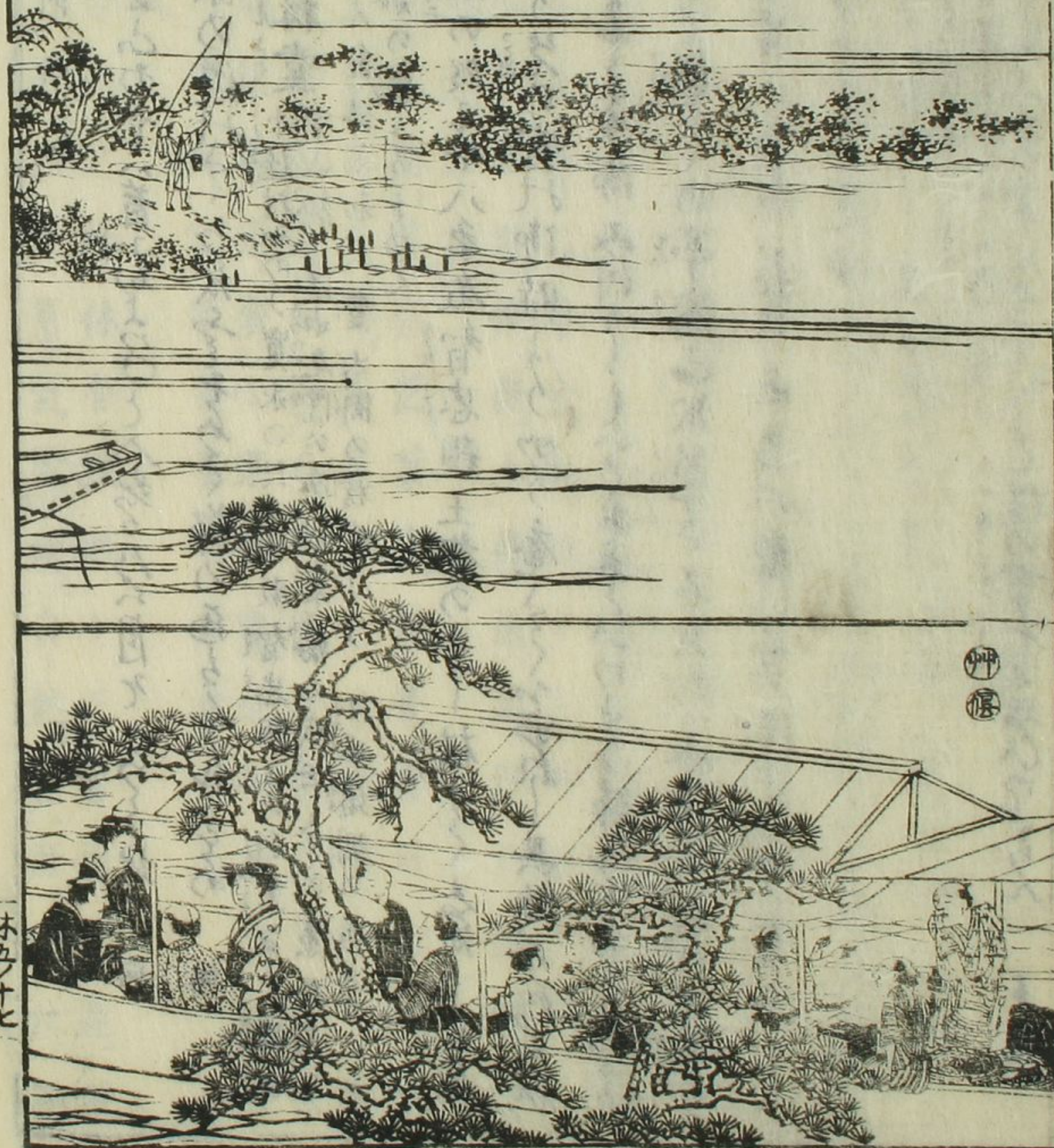
元輔家

桂山莊園林堂の父あり
元輔の家の家と云つた松のうへく人々新と云ふ
元輔の家の家と云つた松のうへく人々新と云ふ
 (あ)と云ふの事なとくは後の事とみ思ひつらん

南の船
や
月
舟
二
橋



桂川
真
船



林五十七

押

男山

雄德山一名幡山或鶴嶺又香爐岩とも云ふ
山麓に八幡宮立せり石清水の温泉あり

男山のやうにたれもまらんとみのももやうをくの外 仲実

八幡ふあゝあゝの穂うけは川波あき澄のゆけの 後東極

おひやける八幡のふれはゆきやの鳴る聲を宮もさるふ 深倉若吉

八幡宮放生會は初はくの一の字位宮より興くあひ傳ふるを願ふ

圓融院所字文延二年宣旨云石清水八月十五日仰推樂寮准諸

節會延之二年八月十五日自今年上卿以下六衛府馬寮准行幸儀

扈從御典 已上諸神記

おやこふ杖のみはの沖きとやふもあつて月とさるた ぼ中行馬

放生會八月十日音宣の一文別當神主檢知三人の神官神若もはく

神と風聲も迂くもや振官祠宮二神官諸神人善社僧及住姓の

人彌豆小彌豆六位四座神人御劔太刀弓等の神寶も捧げ唐櫃九

合瓜あゝ林邑の樂人若樂と奏く二風聲も引經駕連丁もあ

と冠と鉢八本袖幡考子三人白幣獅子頭史生三人物形見四人社勢

三若法院其外社傍神人神子社人教百寮考のゆく列も若院の

松明教百の挑灯四方と照考これをおせんもくた右の席と儲考遠近

あふ集ひく群とるは神考も猪鼻瓜下と神樂瓜山下二考居七本

松の下納屋殿も考と於茲右馬寮所馬公牽二召使堂外記史

左兵衛府右兵衛府辨冬議上卿左右衛府上臈前駈等納屋殿

ふ奉向とせしり初のめく小供考も一考宿院の頓宮不到けり後

り考の儀も准と持けり後二條院延之二年より始る二神官の神

と頓宮も遷りく風聲と北門の外神樂舎も並辨左右邊衛冬議

上卿極樂寺礼堂も着座と神人のみか東方の廻席も屯は振官祠

官神も伶人樂公奏し神官神人のみか神供酒及造られたる考

傳具もく傳ふ内藏寮考も使人進んく官幣宣命と神官も授けり

則頓宮の若小献は神官板板修し祝詞も讀む左右馬寮所馬公

幸く舞臺巡る事二匝於茲神宮公撤を上卿以下諸神人退出と
其後伶人樂公奏し社僧純色の衣を着し高座に登り其餘の舞臺
に於て最勝王經と梵唄に其日暮る及んて還幸し幸ひ川上卿
を議ひ下供をせし頓宮南門の傍に列立し神拜あり社僧長更
神人伶人社僧小津衣を着し白杖草鞋各供をし神を奉殿
に遷し後と修し祝詞を捧ぐみか退散に翌十六日放生川の行
社僧少く誦經し鳥鳥と河に放生これ最勝王經長者子流水品
の池裏の事ありおあるとやひ供へ侍る

八月十五日早且小猪鼻と神樂をせし中川河の儀式を若
樂の考をせし一衣冠のまはひ目みややうをれみか之還幸の
ありさぬと神人法師原ふりまき白杖をつまこせし道小あり
なる儀式をせしやれれ紅顔ありて世路みかこれと夕ア白骨
とありて郊原ふらゆる世のありさぬとありし神樂の程をり

かこく有りたる事とて是より神佛の隔たるとありしと云

當社神式多し中不特小猪鼻一きと二月初卯日の沖神樂又十二月十四日安居

の神式ありは度長の日より始りて終る

八幡八系 雄徳山松 梅樂寺櫻 猪鼻阪雨 放生川 又新院 海人藤枝云

八幡社務者去内大臣後裔之善法寺新善法寺田中善法寺

平等王院檀竹駿河小洛此宗辨祠官

茶島の善法院の林泉ハ小遠別能平坊照乘翁の由能之庵中コ
太子形とて水神あり又遠別妖の茶亭もあり

松花堂 松本坊藤地泉之坊小あり照乘翁退院の自坊之松花堂と
遊棚あり古俵の唐戸 又同之文井も在りて編屋假茅草

杏花堂 比丘照乘筆 入深 額六角 同筆

石燈爐 庭中あり 松花堂 慶安二年 九月十八日 正良敬白

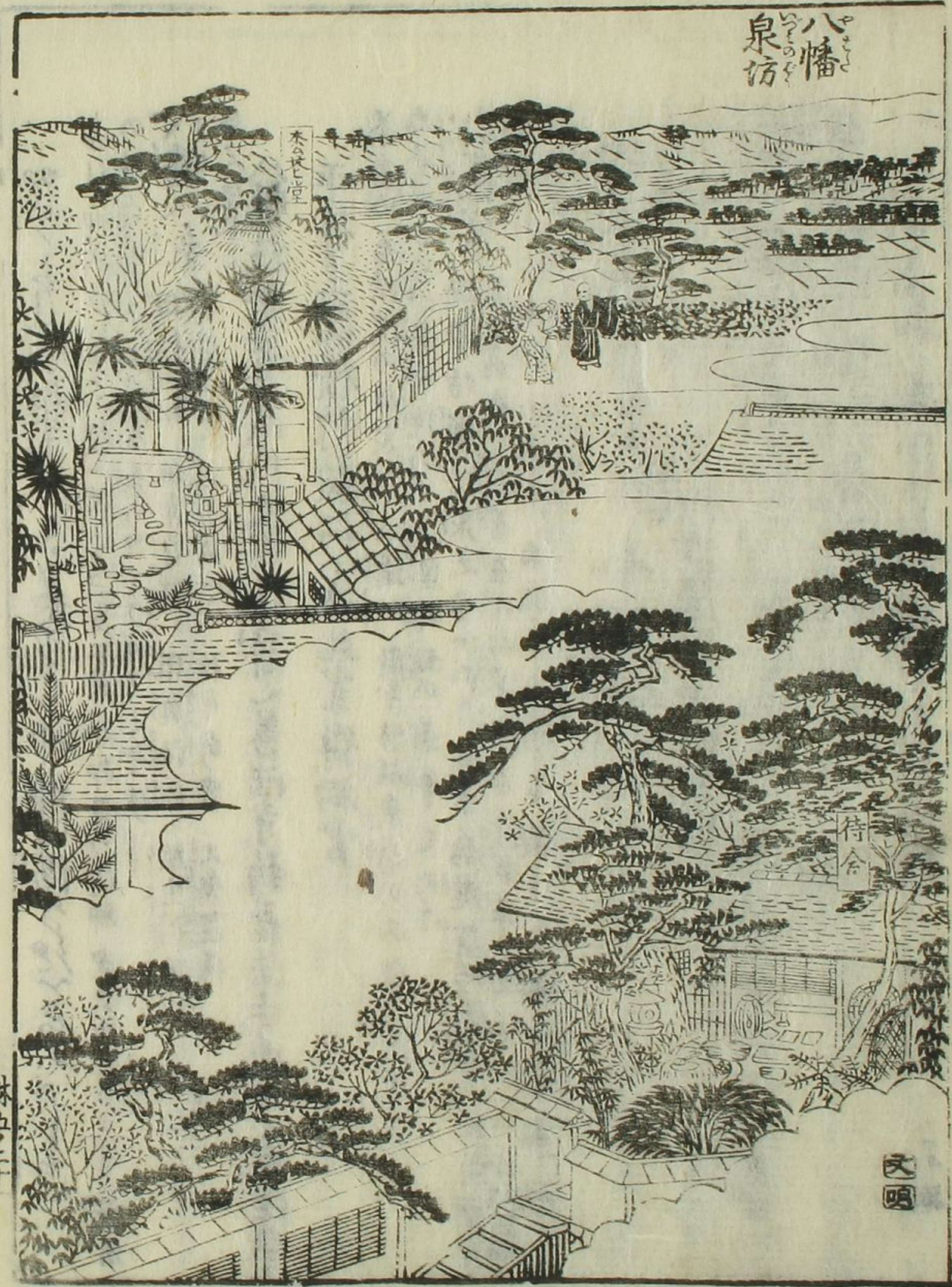
秋坊 書院の画は待望永徳の筆

かあや麻かことは皮ととたの坊

昭
兼
翁
故居



八幡
泉
坊



林
五
之
十

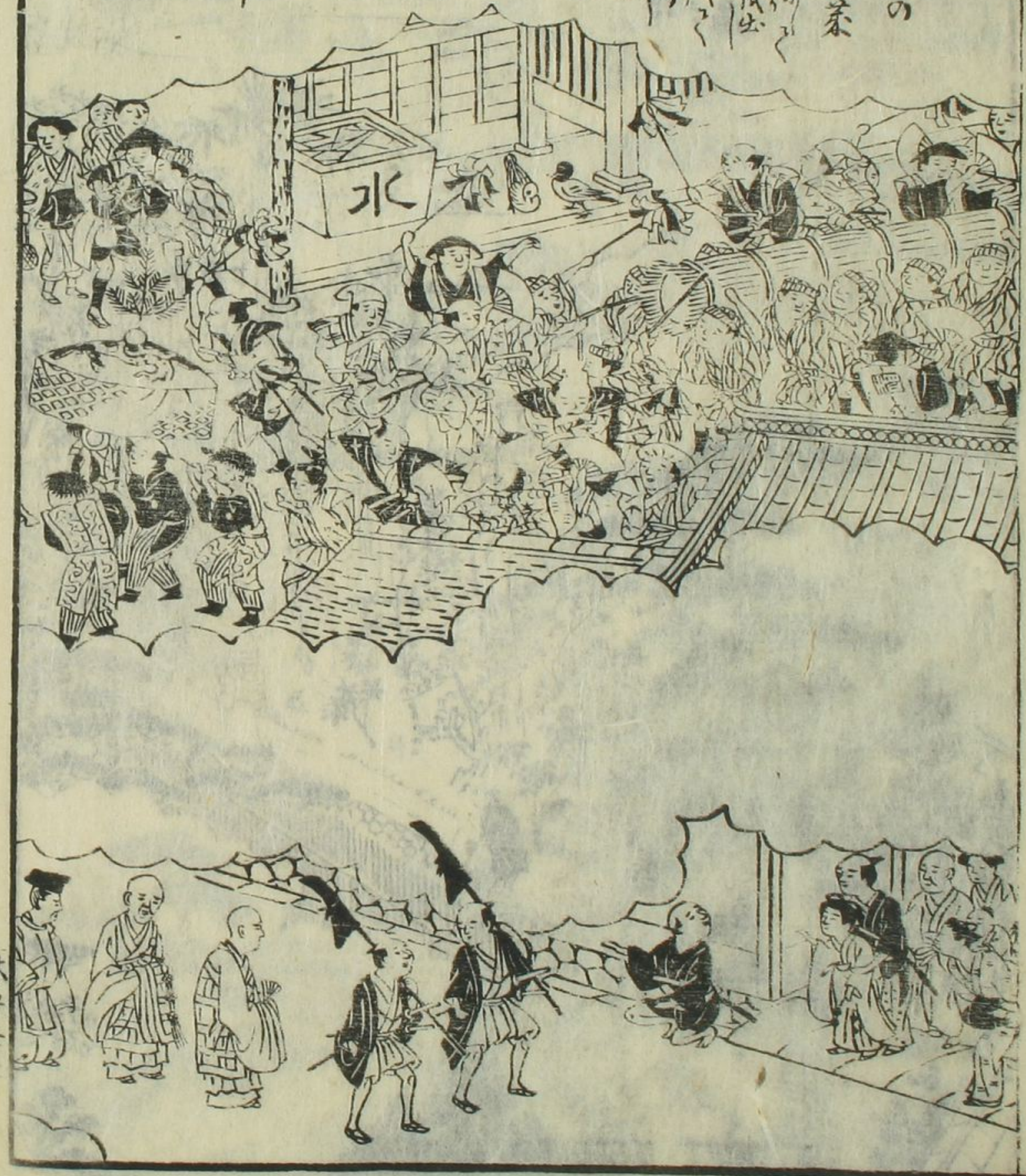
文
四

東京芝居町
蘇州街
蘇州街
蘇州街



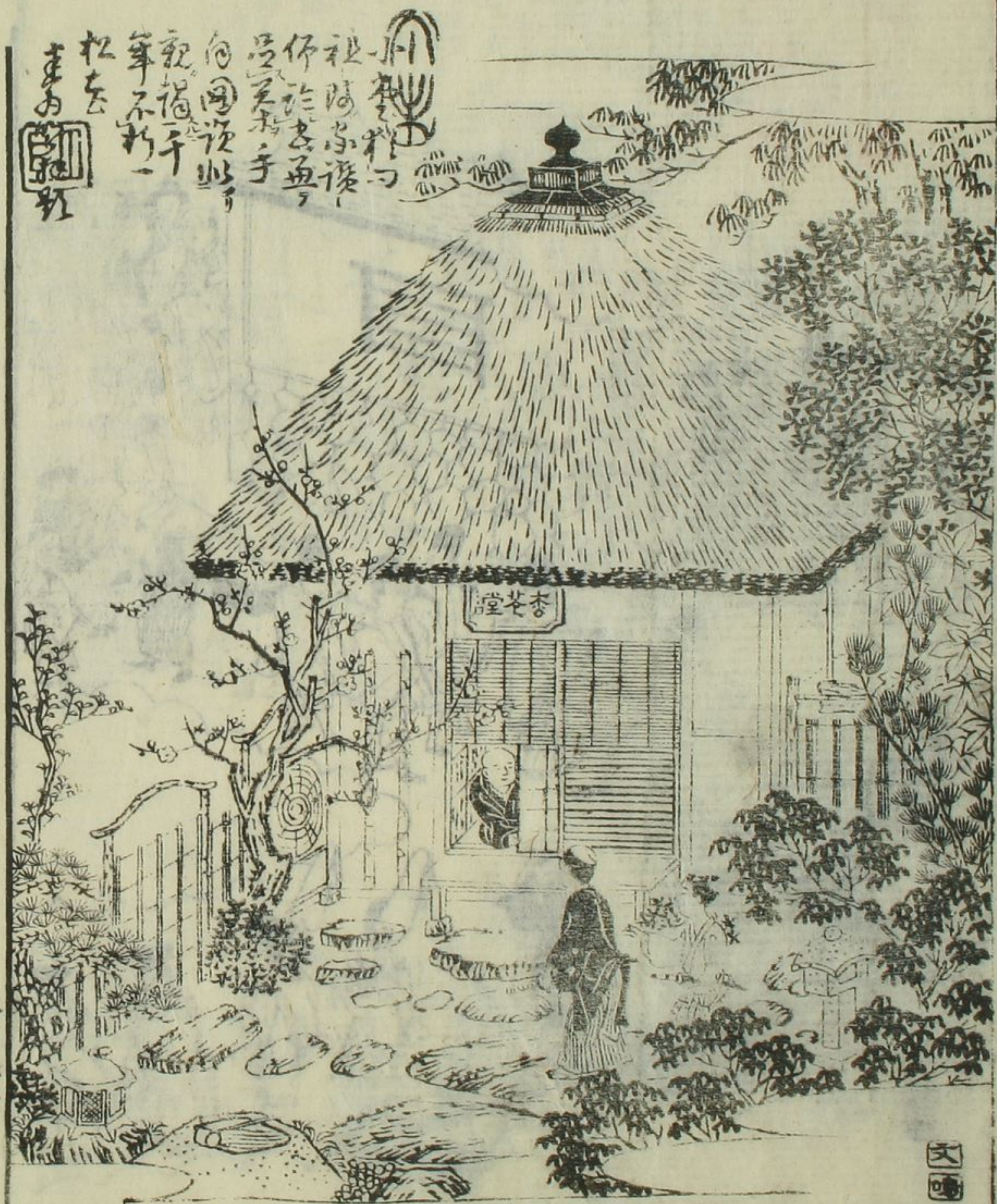
天

八幡安居の
神式
十二月十五日
松の木
山下
所中
神
親
教
中
慶
と
と



木

松花堂全圖



巖崎集 悼南山松花堂

此光從來與俗殊自工草隸得規模
珠浮夢覺歸空界聲價爭傳水墨圖

其外櫻梅坊也昭兼翁の樓也
松花堂の書画多し又山下金剛院の客殿の画も永徳の筆なり

山崎妙意菴 永徳の筆なり
妙意庵住慧峯南宗等書院の禪人物山水の画も永徳の筆なり
同裏山水同筆 庭張附画 政戸裁 有松之齋 裏中
岩も長巻共小

茶室 件後の側小あり千利休居士の嘗む所也
袖摺松 茶室の側あり利休の筆なり
芝山の水鉢 茶室の北にあり芝山と

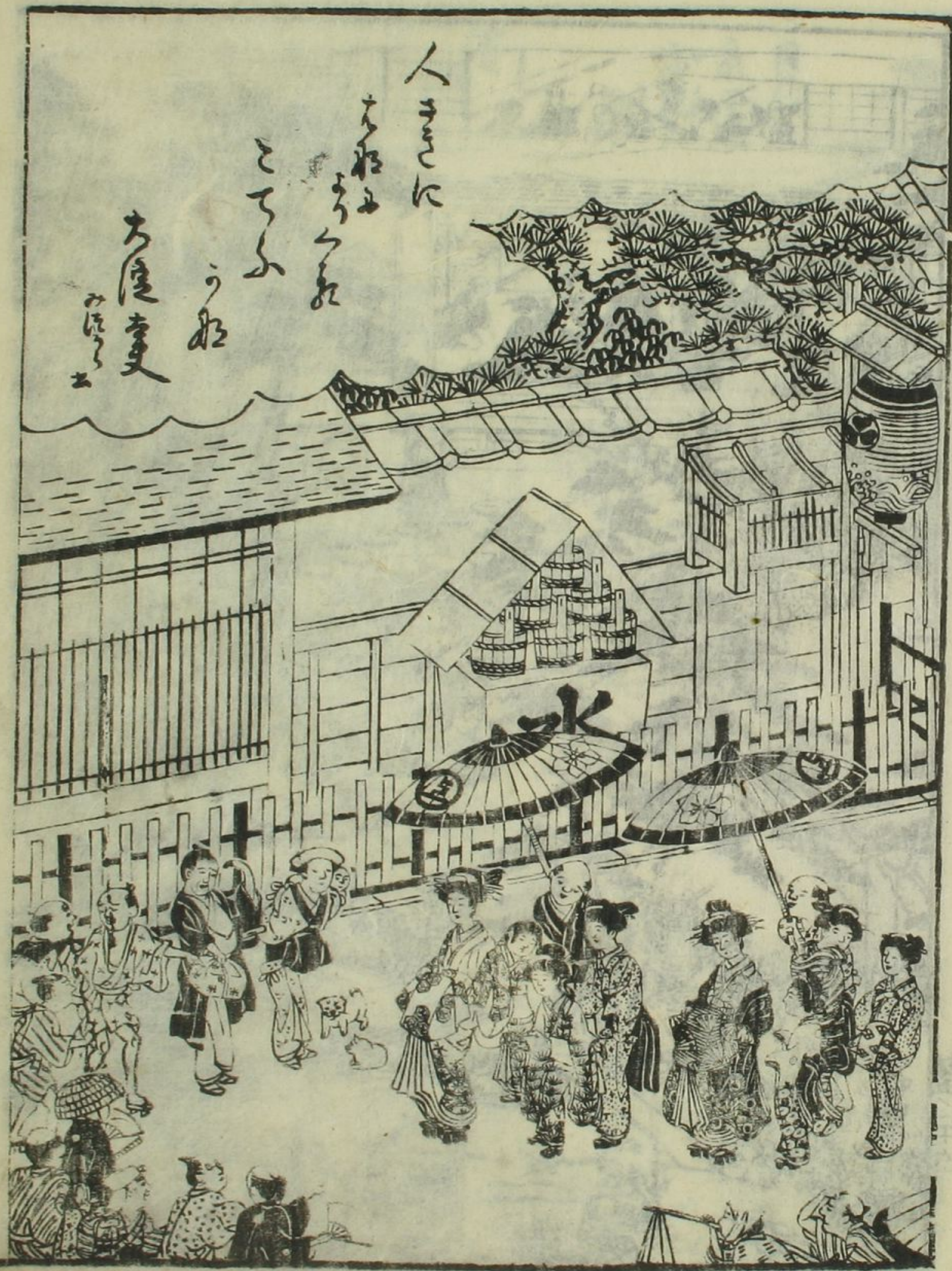
今地五十石分土産とて今もなまらに賜ふと我々へ
け穀赤登の世に名高く茶亭の規範とて曾く豊太閤本駕の時



吉野山
 松林
 池
 鴨
 八十三
 丁
 八十三
 丁



吉祥院
 村中
 陽泉亭
 林白水
 至人
 松翁
 遺



人まに
 大屋
 うね
 こころ
 うね



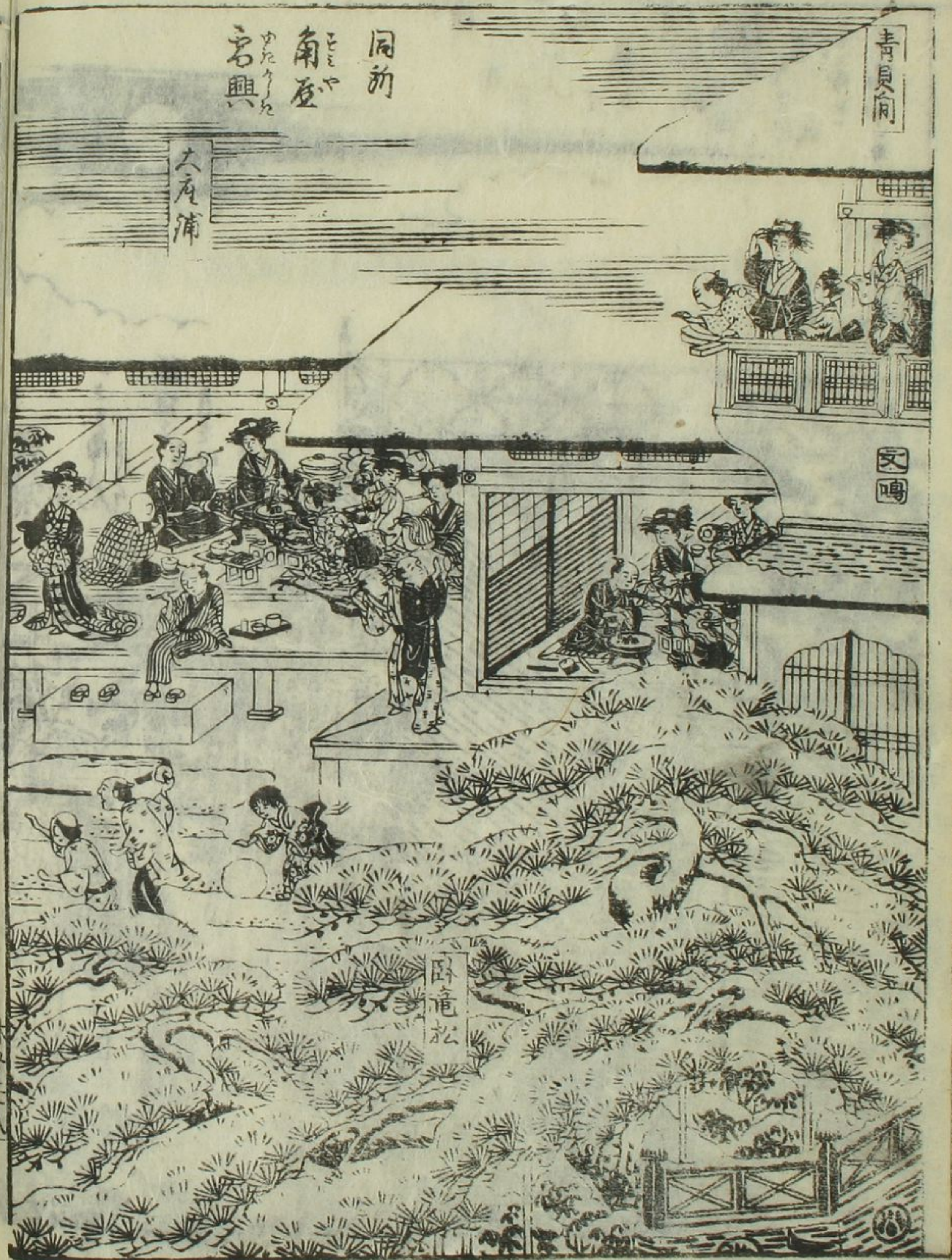
花原

林五



修心
尾上
乃
庭の
松
在
在
人
を
更
ふ
書

曲木亭



同所
南登
若興

大庭浦

青良間

又鳴

臥龍松

きりし今も狂女の歌と世々の撰集も撰れ高位小偏りて事
ありしや十訓抄といふ書小都多藝社にほけて中やけ賞を蒙る
その古今教と志はあやの賤の女をせひてはせしと野曲も撰れ
和歌と好むやうとて人よとて取られ撰集とほけ其をゆあまこ
はゆる中五真子帝院 有根院もく御遊習るにころこのひしと云
事瓜人くとほせと終るふあそひて川あまこ集集より其中に
あまこ御ひく舞よたおとつる小丹波も玉測 赤坂若へへ娘
白女も申せるも帝御船も考へのせと玉測の詩奇小考も三つ
そのとせのむとあまこはあまの奇とよむとてとて修らるるも
かくおの名中りひと

ふらみゆるひひあるまふあつしはるあまねとまのひらり
おやした 帝やあわれと終るく清うち着一をと終るり其外上達部
四位あつくきあめなくおはせけし二箇をうり小様ゆまりふらりとあん

白女
白女三十九

同女源實はうへはるるる附し保みく別は惜るる所みく

今またなみけいありあははらうりありかやあ
やうりるるる後古今集あつれとあつるのころは肥後國の枉女松垣
の姫は後撰集も入神寄の枉女宮城は後拾遺集と様は青墓の傀儡
名史と詞は集あゆり江口の枉女妙は新古今の作者ありあまの
故實あり世々の撰集も入まの上もあつるつとせはア

わらふと笑ひまはあまねと終るる初一の聲 文格
おのろせり小信をか歩く 十市
若母とせ 郭あつり乃 花菜とく 小琴
入定の目とてあつる日 瓜生
たよとあつる寝覺はまふとあつる 花
宵くの侍身もはるる 瓜系

都林泉名勝圖會五之卷 大尾

都林泉名勝圖會跋



六条河原院乃おとつたきを満き古きことと常ふ心とるり
まき河原院もまき心とつた源順此人物のかりし母煙のまき
かりし時世ありまき心とつた改くまき心とつた
其煙まき心とつた名勝のまき心とつた古き蹟の橋のま
いかりし心とつたかかりし心とつた思ふよ

寛平法皇乃高子院の南園中川のよきまき心とつた上東門院ま
かりし心とつた水鳥の籠宮まき心とつた橋のまき心とつた
まき心とつたまき心とつたまき心とつたまき心とつたまき心とつた

備不く畫工といふまき心とつたまき心とつたまき心とつた
まき心とつたまき心とつたまき心とつたまき心とつたまき心とつた
備不乃自在の傲なりぬる枕のまき心とつた相向の海山とつた
法寺のまき心とつたまき心とつたまき心とつたまき心とつたまき心とつた
林泉の園のまき心とつたまき心とつたまき心とつたまき心とつた
筋尾のまき心とつたまき心とつたまき心とつたまき心とつた

寛政十一載仲夏

平安

秋里心齋

烟夕



畫工

法橋佐久間草偃



法橋西村中和



奧文鳴源貞章



京都

吉野屋為八

江都

須原屋善五郎

發行

書肆

江戸日本橋南壹丁目

須原屋茂兵衛

同 淺草茅町二丁目

同 伊八

同 日本橋通二丁目

山城屋佐兵衛

同 芝神明前

岡田屋嘉七

同 兩國横山町三丁目

和泉屋金石衛門

同 下谷池之端仲町

岡村庄助

同 日本橋通二丁目

須原屋新兵衛

同 芝神明前

和泉屋吉兵衛

京都三條通御幸町角

吉野屋仁兵衛

尾州名古屋本町通

永樂屋東四郎

同 同所

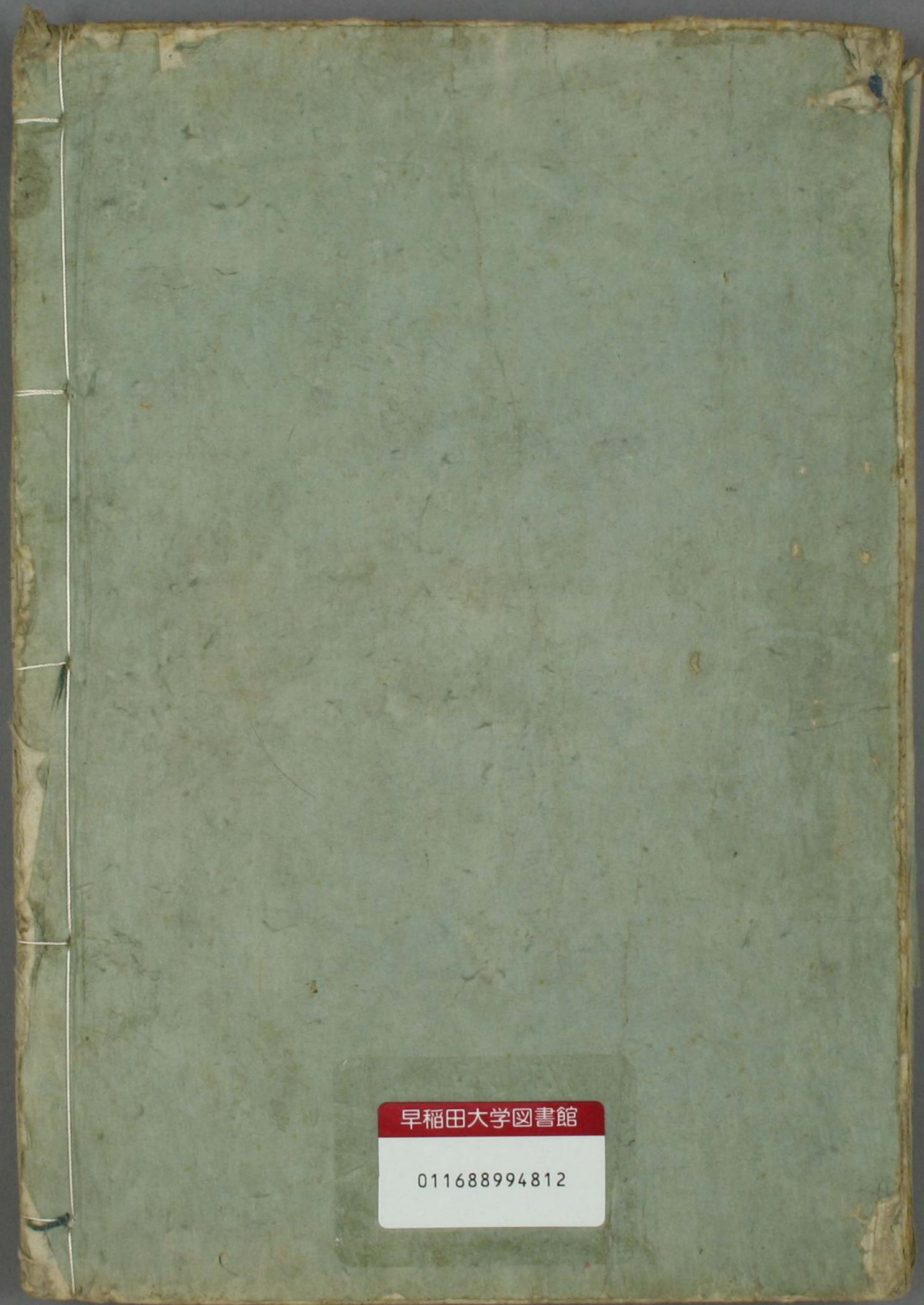
菱屋藤兵衛

同 同所

菱屋平兵衛

大阪心齋橋通北久太郎町

河内屋喜兵衛板



早稲田大学図書館

011688994812